

テーマ

本庄の地域資源を学習する

事業実施地区（中学校区名）	松江市立本庄中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	松江市本庄公民館

テーマの背景

本庄は眼前に広大な中海が広がり、湖岸では水辺の楽校が整備されるなどすばらしい環境にある。また、弁慶誕生の地としてのいろいろな伝説史跡も数多く残っている。これらの地域資源を活用したり、地域のことを知り、伝承する活動を通してふるさと学習を行い本庄に愛着を持つ心を育てたい。

実際の取組

②学校の学びをさらに深める場の設定

事業名：転入教職員本庄ふるさと研修会



弁慶ゆかりの地を訪ねて

<取組の概要>

地域のことをまず知らなければふるさと教育は本物にならない。本年度 11 名の保、幼、小、中に転入した教職員を対象に公民館で「本庄ふるさと研修会」を開催した。まず本庄地区の歴史や文化、史跡等の概要について机上学習し、その後地区内の主な史跡の説明を受けながら実地見学をした。

<成果と課題>

まず地域のことをしてもらい、保・幼・小・中でふるさと教育のカリキュラムに生かしてもらい充実した計画を立てることが出来ると思った。参加者は住民から直接概要を聞き、現地に足を運んだことにより、地域住民の熱い思い、本庄のよいところを肌で感じて良かったと好評であった。

⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：しゃぎり囃子伝承学習（中学生）

<取組の概要>

地区の伝統行事でしゃぎりが正月の宮練り時にある。地域ではしゃぎり保存会が結成されしゃぎり囃子の伝承を行っている。中学 1 年生を対象に保存会の方々を講師にしゃぎり囃子伝承学習を学校の総合的な学習の時間に行った。笛、太鼓、かね等のパートごとに約 2 か月の期間で自分たちでひととおりの演奏できるようになった。

～公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業～

公民館ふるさと教育推進事業 取組事例

<成果と課題>

伝統行事しゃぎりの後継者不足が心配される中で、中学生が囃子に触れ学習することによって関心を持つことが出来た。また、正月の本番では大人に混じって宮練りに参加して、学習した成果を披露してくれたことは地域住民も大変喜んだ。



1月3日宮練り

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：中学生カヌー体験活動

<取組の概要>

本庄湖岸は「水辺の楽校」として整備され様々な活動ができる。湖岸にはカヌー体験ができるようにと艇庫に数艇のカヌーもある。このすばらしい水辺で中学生全員にカヌー体験を実施し、ふるさとを誇りに思う気持ちを育てたいと計画した。地区漁師さん等に救助船をお願いし、地域の指導者の下で思い出の残る活動になった。

<成果と課題>

カヌー体験をとおして、本庄の水辺環境の良さを再認識しその楽しさを十分に味わった。また地域の方々の温かい見守りの中で安全に体験できたことへの感謝の気持ちを感想の中で述べていた。ふるさと学習の伝統行事として今後も続けたい。



中海でのカヌー体験

まとめ

テーマに迫るためのポイント

地域には誇れる歴史や文化遺産、史跡等数多く存在する。しかし、今、それらを語れたり、伝承する人が少なくなっている。地域の良さを学習したり、体験したりすることによってふるさとを再認識することが大切である。また、それらを次の世代へ伝承していく活動も行なわなければならない。本年度も小学生の本庄宝物発見学習など、保育所、幼稚園、小・中学校を通して様々なふるさと教育の事業を関係機関と一緒に取り組んだ。

今後の展望

ふるさと教育は、まず住民が自分たちの地域を今一度見つめ直し、その良さや素晴らしさを再発見することが大事である。様々な仕掛けを行いその学習や体験の場を設ける必要がある。また、地域を担う子どもたちにもいろいろな場を設定して、ふるさとの良さに気づかせ、ふるさとを誇りに思う心を育てていきたい。

文責 松江市本庄公民館 館長 山内 恭